

智頭町第7次総合計画進行管理結果

令和5(2023)年度事業

令和6(2024)年8月

企画課

## 1 目的

第7次智頭町総合計画を推進するため、総合計画に記載されている基本計画について進行管理を適切に行うための仕組みを構築し、それぞれの所管課においても計画の進捗状況を管理する。

また、令和元(2019)年7月1日に内閣府から「SDGs未来都市」の選定を受け、今後の進捗及び評価については、SDGsの指標も加えて行うことで、第7次智頭町総合計画の将来像とSDGsの理念に近づいているかを可視化する。

## 2 進捗状況の検証

各所管課は、各事業のPDCAサイクルマネジメントを実践するため、「進行管理検証シート」を作成し、内部評価を実施。

これまで年度末に行っていた作業を前倒しし、中間検証用のシートを作成。次年度予算要求に向けたActionを明確化する。

## 3 進行管理検証シートの作成

中間検証用のシートを基に、年度末に前年度実績検証用として作成、評価する。

## 4 評価指標

評価については、第7次智頭町総合計画の将来像を達成しているかについて評価することとするが、個別の事業計画において目標値を設定している場合は、その目標値への達成度に鑑み、進行管理検証シートの「評価」欄に下記のとおりA～Eを選択した。

「将来像：一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ」

評価	内容	達成度合
A	「将来像」に十分に達成している	100
B	「将来像」にかなり達成している	75
C	「将来像」に達成しつつある	50
D	「将来像」にあまり達成していない	25
E	「将来像」に達成していない	0

## I 森の恵みを活かしたまちづくり

全体的な評価としては、農業、林業を主軸とした活動は令和5年度も引き続き安定的に展開できている。

令和4年度から令和5年度にかけて事業評価 A が減少しており、主に「仕事」視点での事業評価が下がっている傾向がある。

主な要因としては林道整備事業(No.5)のうち、県営林道事業の遅れ、農業生産支援事業(No.19)や親元就農者支援事業(No. I-5)などにおける小規模農家の継続や遊休農地再生利用の進捗、担い手の確保の難しさがあげられる。

森のようちえんについては、例年どおり入園者を受け入れており(R3 年度 26 人、R4 年度 24 人、R5 年度 30 人)、「まるたんぼう」と「すぎぼっくり」の 2 園体制となり、町外への影響力も高く、本町への移住者増へ貢献している(No.1)。

「仕事」を視点とする事業において昨年度新規に 4 事業が創設され、主に農業従事者への支援を重点的に行っている(No. I-5～I-8)が、前述のとおり高齢化、人口減少の影響が大きく依然として担い手不足の根本的な解決には至っていない。

林業関係事業においては、智頭の山人塾参加者数(No.11)が計画を上回る実績となっており、自伐型林業推進のための研修会参加者数(No.6-2)は若干減少しているが、智頭の林業の入口としての山人塾、より専門的な知識・技能を習得するための自伐型林業研修会というつながりのある政策は定着している。智頭町複業協同組合の取り組みに伴う「林業マルチワーカー」(No.6-1)という新しい働き方も生まれ、基幹産業としての林業の展望が期待される。

間伐促進のための出荷材支援(No.7)については、一昨年度豪雪により出荷量が減少していたが、5年度はある程度の改善が見られた。

地籍調査事業(No.30)については、直営及び関係団体と連携しながら計画どおりの進捗で進んでいる。

有害鳥獣事業(No.20)については5年度に猟友会新規加入があり、捕獲頭数の大幅な増につながっている。侵入防止柵整備も高い実績となっており、ジビエ供給の安定化を目指していく。

I 森の恵みを活かしたまちづくり		目標への達成度(下段:令和4年度数値)				
		A	B	C	D	E
		十分に達成	かなり達成	達成しつつある	あまり達成していない	達成していない
健康	智頭町ならではの自然やつながりで健康長寿な暮らし	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
仕事	受け継いできた仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる	2 (7)	16 (15)	8 (4)	0 (0)	0 (0)
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境	3 (3)	4 (3)	0 (1)	0 (0)	0 (0)

## II 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり

全体的な評価としては、健康や福祉に関する施策、IP 告知端末や道路整備などのインフラ施策は昨年度とおおむね同様の事業規模、評価であった。一方で新たな交通の仕組み「共助交通のりりん」が5年度から本格稼働し、町民の生活に少なからず影響があった一年となった。

従来運行していた町民バスはスクールバスとなり、これまでの乗客はほとんどが共助交通「のりりん」へ移行することになったが、R4 年度の全町実証実験に比べて R5 年度は2万8千人余り(No. II-7)と、非常に安定的な運行実績となった。今後は乗車システムで取得できるデータログを分析し、より効率的な配車や運行、のりりんを活用した新しいサービスの展開を目指していく。

IP 告知端末(No.53)はのりりん乗車予約を行うツールでもあるため、端末操作相談会を前年度から倍増させて実施している。また昨年度から健康動画も地区ごとに配信し、視聴データの取得を行っている。

中学校の部活動(No.40)に関して、外部指導者数を大幅に増やし、教員の働き方改革を進めている。ソフトテニス(1)、バレー(女子2、男子1)、卓球(1)の種目。

介護予防事業(No.43)は順調に実施できており、住民の健康維持、向上への成果が期待できる。森のミニデイや集落で行う百歳体操が定期的で開催されており、理学療法士の指導も再開している。

道路インフラ事業については、国土強靱化の観点から国県補助金が重点的に配分され、点検及び修繕、改良が充実した(No.55)。

智頭病院の医師及び看護師の確保は最も重要な課題の一つであるが、看護学生に対する新規奨学金受給者の実績はなく、懸案状況は続いている。研修医及び学生の受け入れについては実績として向上している(No.48,50)。

安全安心な学校給食の提供(No.37)においては、引き続き学校給食費の無償化を継続し、子育て世帯の負担を軽減していく。

II 安全・安心に暮らせる健康長寿のまちづくり		目標への達成度(下段:令和4年度数値)				
		A	B	C	D	E
		十分に達成	かなり達成	達成しつつある	あまり達成していない	達成していない
健康	智頭町ならではの自然やつながりで健康長寿な暮らし	3 (2)	17 (17)	0 (1)	0 (0)	0 (0)
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境	11 (11)	8 (5)	1 (3)	0 (0)	0 (1)

### Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり

全体的な評価としては、評価 A の事業が2事業増、評価 D の事業が1事業増と評価が分かれた結果となった。要因としては、ちづ NEXT (No.80) や智頭農林高校連携 (No.89) 事業など中高生を対象とした事業実績があがり、企業支援 (No.91) における企業訪問が十分できなかった反省点があげられる。

ちづ NEXT (No.80) では中学生と大学生とがつながって百人委員会提案をするプランが定着し、地元への愛着や事業実践経験を積むことのできる仕組みができています。

智頭農林高校連携 (No.89) では実践塾「BaseConnect」が稼働し、様々なプロジェクトが高校生主導で実践されている。また寮の整備を行い、県外から2名の高校生が智頭町在住で高校に通っている。

企業支援事業 (No.91) については、新規創業ニーズが近年増加傾向にあるが、定着しないケースもあり、起業、創業後の伴走支援の必要がある。

コミュニティスクールの取り組みが本格化し (No.69)、地域学校協働推進員の配置、各地区関連団体への協力依頼、地域からの提案受付などを実施。

ちえの森ちづ図書館は開館以来 17 万人を超え、図書館を中心にした賑わいの創出 (No.82) 事業においては百人委員会や地域と連携した取組を引き続き積極的に行っている。利用者、貸出冊数も計画どおりであり (No.88)、「子どもから大人まで学びと成長のまちづくり」の象徴的な公共施設として確立している。

文化財事業 (No.84) については、智頭の林業景観構成要素の整備、石谷家住宅の維持管理を実施。石谷家住宅大屋根の瓦老朽化についての調査を行った。また、構成要素である旧平野邸については R6 年度に改修工事を行い、文化とアートの拠点として整備予定。

SDGs推進事業 (No. Ⅲ-1) については、内閣府の広域連携事業を静岡県松崎町と取り組み、新しい関係人口づくりを行った。地域資源型 NFT を発行するプラットフォームを活用し、他県の日本で最も美しい村連合加盟町村へ少しずつ広がっている。

Ⅲ 子どもから大人まで学びと成長のまちづくり		目標への達成度 (下段: 令和4年度数値)				
		A	B	C	D	E
		十分に達成	かなり達成	達成しつつある	あまり達成していない	達成していない
学び	生活の知恵から趣味や仕事まで、暮らしを彩る学びを増やす	3 (1)	20 (22)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
仕事	受け継いだ仕事を活かし、新たなチャレンジを広げる	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
仲間づくり	活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に重ねるコミュニティ	0 (0)	8 (4)	0 (4)	0 (0)	0 (0)

#### IV 地域や家族のつながりでつくるまちづくり

全体的な評価としては、昨年度評価 B であった事業が評価 C になっているものがあり、特に家族の視点での事業でその傾向が見られた。また事業費が昨年度比較で大きく増額となっているが、これは移住定住事業(No.106)のゆめが丘定住促進住宅建築によるところが大きい要因となっている。

産前産後サポート、ケア事業(No.103)について大きく実績が伸びており、身近に受けられる産前産後サポートや、育児不安を解消するフォローを望む声が高まっている。また、山郷地区に助産院、デイサービス、診療所、温浴施設、宿所等がオープンし、新たな受け皿として期待される。

子育て支援対策事業として、子ども家庭福祉事業における虐待件数は昨年度からさらに増加しており(No. 111)、子供の居場所利用者も計画値より大幅増となっている。様々な要因が複雑に重複する深刻な課題であり、各機関の緊密な連携と対応が求められている。子ども食堂事業や学習支援事業(No. 122)も依然として需要の高さが伺える。

高齢者支援事業としてタクシー助成事業(No.114)はタクシー事業者の撤退により、令和 4 年度が最終年度となり、事業費は大幅減額となっている。従来のタクシー利用者は、共助交通か、シルバー人材センターの有償運送を活用している。

令和 2 年度から始まった「おせっかい奨学パッケージ」事業(No.133)は、企業版ふるさと納税額が 2 社 1,300,000 円、登録小学生数 78 名、うち 11 名 U ターン、うち 2 名役場就職と実績を出している。おせっかい事業を町内へ浸透させるためのおせっかい協賛企業も直近で 8 社あり、おせっかい川柳や奨学生との交流会も行っている。

まちのコイン事業(IV-4)について、まちのコインガチャイベントを実施し、好評であった。体験コーナーを併設することでまちのコイン「てご」を貯め、貯まったらガチャを回すことができる仕組みが子どもから大人まで人気で、今後様々なイベント時に活用することが期待される。

IV 地域や家族のつながりでつくるまちづくり		目標への達成度(下段: 令和4年度数値)				
		A 十分に達成	B かなり達成	C 達成しつつある	D あまり達成していない	E 達成していない
家族	一人ひとりの個性を活かしながら支え、つながる家族	2	13	4	0	0
		(1)	(17)	(2)	(0)	(0)
仲間づくり	活動を広げる仲間づくり、小さなつながりを幾重に重ねるコミュニティ	2	5	2	0	0
		(2)	(6)	(1)	(0)	(0)
環境整備	町民の安心な暮らし・活動をささえるための、そして未来に受け継ぐ環境	0	3	0	0	0
		(0)	(3)	(0)	(0)	(0)